

Cente Technical Information

| | | | | | |
|-------|---|-----|-----|-----|------------|
| 発行番号 | 002-0015 | Rev | 第1版 | 発行日 | 2011/11/04 |
| 題名 | ファイルデータ用バッファサイズ境界(末尾)の位置へシーク後、正しくデータ読み書きを行うことが出来ない不具合について | | | | |
| 情報分類 | 技術情報 | | | | |
| 適用製品 | ・Cente Compact FileSystem Ver2.00 | | | | |
| 影響API | fseek | | | | |
| 関連資料 | なし | | | | |

【現象】

以下の手順でファイル操作を行うと本来アクセスすべきセクタより前のセクタにアクセスしてしまいます。

- 1)fseek()に対してファイルデータ用バッファのサイズで割り切れる位置への移動を指定(ファイル終端は除きます)
- 2)fwrite/freadを実行

【原因】

fseek()に対してファイルデータ用バッファのサイズで割り切れる位置への移動を指定した場合、ファイルデータ用バッファに対する読み書き位置を「終端」にした状態でシーク処理を終了する必要がありますが、その判断文に誤りがあり、読み書き位置を「先頭」の状態を終了してしまう場合があります。

【回避方法】

■運用での回避方法

fseek()に対してファイルデータ用バッファのサイズで割り切れる位置への移動を指定しない運用が可能であれば回避することが可能です。

ファイルデータ用バッファサイズとは、fs_memory.c内で設定を行うセクタサイズまたはクラスタサイズのバッファサイズを示します。
またファイルデータ用バッファのサイズで割り切れる位置であっても、その位置がファイル終端であれば本不具合は発生しません。

■プログラム修正による回避方法

fs_ansi.cのfs_fseek()に修正が必要です。

修正方法につきましては、弊社サポートまでお問い合わせ下さい。

以上